

社会福祉法人祥和会

2024年(令和6年)度事業報告

地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家
ショートステイ五本松の家
デイサービスセンター五本松の家

【施設の概要・職員配置】※２０２５年３月３１日現在

事業所名	定員	職員数（全体計：58人）	摘 要
地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家	29人	施設長、介護職員17人 看護師、生活相談員、介護支援専門員、管理栄養士、機能訓練指導員、調理員	10人×2ユニット・ 9人×1ユニット
ショートステイ五本松の家 （短期入所生活介護・介護予防短期入所生活介護）	20人	管理者、介護職員10人 看護師、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員	10人×2ユニット 管理者、機能訓練指導員、生活相談員、管理栄養士、調理員は、特養と兼務
デイサービス五本松の家 （通所介護・介護予防通所介護）	25人	管理者（作業療法士）、 介護職員6人 生活相談員、看護師、 管理栄養士等	生活相談員は介護職員1人兼務、管理栄養士、調理員特養兼務

職員配置について、中途の退職等があったが随時補充。

【事業区分別事業報告】

２０２４年度は、新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、ノロウイルスなどさまざまな感染症の対応が必要となりましたが、とくに面会制限や集団感染もなく通常通りの対応で過ごすことができました。

施設内行事は、入居者、利用者のニーズに応じて、感染症対策を行い、例年通りユニットや会場を広くとり開催しました。

家族面会は、予約制で人数制限を行いながら、居室やよつぱルームにて行いました。あわせて、SNS（ホームページ、LINE、Instagram）を活用して日常の様子をこまめに発信した。

また、職員研修や各種委員会については、通常通り、しっかりと開催をしました。

１）地域密着型特別養護老人ホーム五本松の家

【２０２４年度目標】

〈目標〉

- １）２０２３年度に引き続き、入居者やご家族の安心・安全の確保、健康管理に重点を置き、感染症対策の徹底、職員の知識、技術の向上に努める。
- ２）入居者の入院を毎月延べ人数の１割にとどめ、退居から新規入居までの日数を７日以内とする。
- ３）入居時より、これからの人生がより豊かなものとなるよう、入居者、またご家族の意向の聞き取りを行う。施設での、看取りについての説明を入居時より行い、看取りケアについての体制を確立していく。

２０２４年度中の利用率目標は、９９．８％～１００％としていたが、９７．８

1%となっている。退居者は6人、全員が施設内での看取りでした。新規入居者は6名、当施設のショートステイを利用中の方でした。

退居から入居までの日数は、最短で1日、最長で3日となっています。

2024年度はさまざまな制限を解除しながら、行事の全体開催、各ユニットやフロア開催など積極的に行い、ストレス改善等を検討し、開催した。

※各行事は、特養・ショートステイ・デイサービスともに開催。

4月	花見散歩・ドライブ、誕生日会 ユニット：出前レクリエーション 桜餅づくり、春の壁画・ちぎり絵製作・おやつレクリエーション 桜の花見鑑賞会、歌・体操
5月	端午の節句、誕生日会 パラ鑑賞 母の日イベント（カーネーションづくり） ユニット：出前レクリエーション、おやつレクリエーション 鯉のぼりシューティング、脳トレドリル、ガーランド作り あじさい壁画づくり
6月	出前レクリエーション ユニット：おやつレクリエーション、うちわゲーム、ハンドマッサージ & フェイスパック美容、あじさいアート作り、七夕飾りづくり
7月	七夕、夏祭り、消防避難訓練 ユニット：おやつレクリエーション（アイスクャンデー作り） 出前レクリエーション、オリジナルかき氷作り、風船バレー、壁画制作 紙コップタワーゲーム、カフェ五本松の家
8月	出前レクリエーション 盆踊り大会、ユニット：おやつレクリエーション（すいか割り） 花火ボール作り、キャッチボールゲーム、水分週間、かき氷&シャーベ ットづくり 花火鑑賞
9月	敬老会 ユニット：おやつレクリエーション（おはぎ作り） そうめん流し、秋の花火鑑賞 出前レクリエーション、わいわい脳トレ、ストローゲーム
10月	ハロウィンレクリエーション、ハンドベルコンサート、 スポーツ FESTIVAL、芸術 WEEK、コサージュ作り、秋の読書週間、散歩
11月	多治米学区ふれあい広場出展作品づくり ふかし芋づくり、手浴&足浴癒されtime インフルエンザ予防接種、コロナ予防接種
12月	リスマスケーキ EMENT, クリスマス会 BEAUTYSALON しめ縄作り、忘年会 もちつき
1月	新年会、お正月行事、初詣、 とんどへ参加 おしろこ作り
2月	節分行事・バレンタイン企画、五本松の家湯（大根）

	お雛様作り、NAIL SALON 新聞ゲーム、カフェ五本松の家
3 月	ひな祭り、春と桜の工作、抹茶どら焼き、フルーチェ作り お花見散歩、桜の作品作り、言葉遊び、歌&リズムエクササイズ デイサービスに桜の花を咲かせましょう！作品作り、
その他イ ベント	出前レクリエーション（寿司やお弁当など） 美容院（月 2 回）外出散歩（随時）

2) ショートステイ五本松の家

〈目標〉

- 1) 利用希望されている方の思いにできる限りこたえられるよう、平素から居宅介護支援事業所、利用者ご家族との連携を密にとり、稼働率 88%以上を目標とした。
- 2) 短期利用の受け入れを増やし、また、在宅での生活が非常に困難な方の受け入れを積極的に行えるようケアマネジャーとの連携を深める。
(要介護度の高い方〈要介護 3～5〉の受け入れを重要視する。)

2024 年度の利用率は 90.4%、年度内利用者実人数は 58 人、その内訳は、男性 19 人、女性 39 人となっている。

利用者の介護度の平均は、男性 3.59、女性 3.76、全体では 3.72 となっている。

季節行事、おやつレクリエーションや作業療法など、様々な行事を取り入れ、さらにユニットごとに集団体操を実施し、食事前には口腔体操を実施し、自立支援の取り組みを実施。

難病や、歩行制限がある方、在宅酸素を使用している利用者や重度の認知症の利用者など、医療依存度が高い利用者に対しても、事前面談を行い、情報収集し、さらに受け入れ前に職員の勉強会を行うなど、積極的に受け入れるための取り組みを行った。

新型コロナウイルス感染症等への対応として、家族との交流もしっかりと行い、体調不良時に早期に抗原検査等の実施を徹底し、早期発見、早期対応を優先とした。

感染症や重度化のため、長期利用となった人も多く、入所者のストレスも高く、毎月の行事をしっかりと企画し、家族やケアマネジャー向けの広報誌「ほっと五本松の家通信」にて施設内の様子を発信した。

3) デイサービス五本松の家

2024 年度のデイサービスセンター五本松の家の目標は、

- ① デイサービスの利用により、改善・向上に繋がるケアを提供する
- ② 新規利用者の獲得【年間 20 名以上】
- ③ 2024 年度末の最終稼働率 70%以上確保

2024 年度の運営目標に対して、利用者の身体機能維持・向上ならびに日常生活動作改善に向けて本人・家族、ケアマネジャーに向けて自宅で取り組んでいただきたいケア方法や自宅で使用する福祉用具の導入や変更など提案し、実際に本人や家族の

負担が軽減したというケースも確認できるなど、積極的に動くことができた。また、家族等が気付かなかった利用者の身体的な異常・異変にデイサービススタッフが第一発見し、早期に受診を勧められたケースもあるなど今後も、利用者ならびに家族が安心して利用できる場所・信用できる場所として積極的に関わっていく。

運営状況としては、前年度介護保険事業収益は43,168,240円から今年度45,583,465円と2,415,225円の増収となり、利用延人数4,971人から5,093人と112人増という結果がみられた。

年間新規獲得数について、23名獲得（契約済）ができ、前年度から＋9名と目標に対して増やすことができたが、年度末最終稼働率をみると61.7%着地（年度平均稼働率65.5%）となり前年度平均稼働率（64.5%）から増える形となったが、目標である70%以上に対して未達成の形となった。

主な理由としては、体調不良に伴う利用中止ならびにショートステイ等への入所サービスへの利用による利用人数減少である。年間新規獲得数増加については、同地区内の2025年6月末での事業所閉鎖から受け入れ先として紹介を得る形が多く、当施設の利用開始時期が4月以降の方が多く、次年度運営状況への反映する形となる。引き続き、ケアマネジャーへの通常営業と合わせて、閉鎖事業所からの受け入れ先を探されている方への選択場所として居宅介護支援事業所への営業を継続していく。

デイサービスでの主な活動内容：

集団体操、口腔体操、脳トレ、カラオケ、季節・時期に応じたレクリエーションや作品作り、物理療法（低周波治療器、ホットパック）、ウォーターベッド、個別機能訓練（有資格者）、その他

【法人、職員、地域交流スペース等行事報告】

4月	職員研修、接遇研修 職員健診（全職員対象） 運営推進会議
5月	町内一斉清掃参加 監事監査 BLS研修（外部講師） 消防避難訓練
6月	理事会 評議員会 運営推進会議 水害避難訓練
7月	水害避難訓練 BLS研修（外部講師） 消防設備点検 生寿園さんより見学

8 月	夏祭り 運営推進会議 BCP シミュレーション
9 月	敬老会 消防避難訓練 浴槽内レジオネラ属菌・大腸菌群検査 貯水槽清掃 建築設備建物検査
10 月	水質検査 職員健診（新入職員・夜勤者） 町内秋祭り 消防設備点検 運営推進会議 BCP 机上訓練 かわまち広場トライアスロンボランティア
11 月	インフルエンザ、コロナ予防接種 通所ケア研究会・施設訪問（30 人来所） スナック五本松 社会福祉法人指導監査（福山市福祉総務課）
12 月	館内清掃・窓ガラス清掃 クリスマス会 社会福祉法人忘年会 BCP 机上訓練 運営推進会議 ダナン医師見学（脳神経センター大田記念病院より）
1 月	
2 月	運営推進会議、入所判定会議
3 月	消防避難訓練（夜間想定） 消防設備点検 新型コロナウイルス感染症 BCP シミュレーション 地震・津波対応 BCP シミュレーション 脳神経センター大田記念病院感染対策チームより訪問・連携 理事会 評議員会

【委員会・会議報告】

会議・委員会名	頻度・実施	参加者等
経営・運営会議	週 1 回・月曜日	理事長・理事・施設長・事務
運営推進会議	6 回/年	地域運営推進委員、地域包括支援センター、理事、施設長、介護支援専門員、生活相談員、介護主任等
リーダー会議	月 2 回	施設長、主任・管理者・各リーダー等
安全衛生会議	月 1 回	産業医、施設長、主任・管理者・各リーダー、各専門職等
ユニット、部門ミーティ	月 1 回	各部門スタッフ

ング		
サブリーダー会議	月 1 回	各部署サブリーダー、主任、施設長
ケアプランミーティング	必要時	施設長、主任・介護支援専門員、生活相談員、管理栄養士、機能訓練指導員、ユニットスタッフ、看護師等
デイサービス・ショートステイミーティング	月 2 回	デイ、ショートステイスタッフ 看護師、生活相談員等
事故防止委員会	月 1 回	担当委員（西原・各部署代表）
感染防止委員会	月 1 回	担当委員（石井・各部署代表）
身体拘束廃止委員会	月 1 回	担当委員（城平・各部署代表）
虐待防止委員会	月 1 回	担当委員（城平・各部署代表）
栄養・褥瘡防止委員会	月 1 回	担当委員（新山・森川各部署代表）
企画委員会	2 か月に 1 回	担当委員（鳥谷部・各部署代表）
研修委員会	2 か月に 1 回	担当委員（山野・各部署代表）
自立支援委員会	月 1 回	担当委員（正明・各部署代表）
防災委員会	月 2 回	担当委員（西原・各部署代表）
生産性向上委員会	月 1 回	担当委員（西原・各部署代表）
排泄委員会	2 か月に 1 回	担当委員（正明・各部署代表）

■法人本部 事業報告

【監事監査】 5 月 2 0 日

【理事会】 6 月 3 日、3 月 1 0 日

【評議員会】 6 月 2 5 日、3 月 2 5 日

【運営推進会議】 4 月 1 7 日、6 月 1 9 日、8 月 2 1 日、1 0 月 2 1 日、
1 2 月 1 8 日、2 月 1 9 日（偶数月に開催）

【特養入所判定会議】 2 月 1 9 日に実施

■地域交流スペース・地域交流事業

地域交流スペースでは、随時対応にて「暮らしの保健室ふくまち」の相談事業を行い、毎週金曜日（10時半～11時半）には地域の方々、入居者家族などを対象に「おしゃべり体操教室」を行った。（地域包括支援センター箕島と連携）

また、5 月、1 1 月には、「スナック五本松」を開催した。

■職員に関すること

今年度は、職員交流会を 2 か月に 1 回開催、定期的な職員交流会を開催、1 2 月には社会福祉法人祥和会役員の方々も一緒に忘年会を開催することができた。

地域活動への参加も積極的に行い、町内一斉清掃の溝掃除への参加、集会所の清掃、地域での災害訓練への参加協力、かわまちトライアスロンボランティア等への参加も行った。

感染症対策としては、新型コロナウイルス感染症に関して、継続して感染予防研修の実施、早期発見対策を徹底した。職員や入居者の発熱や体調不良等の対応も、協力病院と連携して早期対応を行った。

2 0 2 4 年度は、新型コロナウイルス感染症は、職員 1 3 名、ショートステイ利用者 2 名の陽性があった。（特養入居者なし）

インフルエンザに関しても、職員 1 名の感染が見られた。

■ 2024年度まとめ

2023年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症への対策、対応、予防、そして発症時の対応など、施設全体として様々な対応を継続していったが、居室面会の開始、ショートステイの短期利用の推奨、利用者、入居者の外出勧奨、会議や研修会、行事の積極的参加と実施を行っていった。

また、職員の研修もオンラインと集合研修の選択が多くなり、参加するスタッフの意欲へもつながっている。

継続した課題も多く残ったが、事業ごとの広報活動や、スタッフ主導のイベントやSNSの活用など、さらに施設全体で模索し新しく、魅力発進委員会を設立した。

ボランティアなどの行事やイベントも実施し、施設全体で行う大きなイベントもスタッフ主導で実施した。

また、施設での看取りも定着し、スタッフ全員で看取りに取りくんでいく体制づくりができ、あわせて、看取り後の、「ガーベラカンファレンス（デスカンファレンス）」の実施を行い、ご家族の思いを直接的に聞き、看取りケアにかかわることの重要性や、役割を再認識する機会となった。

家族の気持ちの中に最期に家に連れて帰ってあげたいという思いを実現するために、かかわるスタッフ全員で準備、うちあわせを行い、ご家族とともに自宅へ帰ることも実施することができた。

とくに昨年度から継続している、看取りだけでなく、施設へ入ってから家族がしてあげたいこと、本人がやりのこしたことを積極的に支援し、実施していくという計画を（ACP）、本人家族とともに話し合い、一人ずつ計画的に実行している。

職員交流も少しずつ拡大し、2か月に1回の職員交流会も再開し、職員同士の交流とモチベーションアップの取り組みを継続していきたい。

2025年度は、引き続き感染症対策も意識、継続しながらも、できる限り日常を大切にさらに、入居者、利用者主体のサービスの工夫を検討し、デイサービス、ショートステイの拡充、利用者主体の運営、広報活動を実施して行く。